

平成 21 年度ユニバーサルデザイン (UD) 教育の取組

1 学校名	基山町立基山中学校		
2 所在地	佐賀県三養基郡基山町宮浦 9 4 1		
3 校長名	江島良介		
4 学級数 児童生徒数	19 学級 574 人	5 実施学年 児童生徒数	第 1 学年 177 人

6 取組のねらい

総合的な学習の時間に取り組む「郷土(基山)を知ろう」の一環として、UD 教育を位置づける。UD の基本理念や実際にどのようなものがあるのかを調べ、学習することによって、多様な個性や違いについての理解を深め、思いやりの心を育てたい。

7 取組の実際

総合的な学習の一環としたので、郷土(基山)を知るために、地域の方をゲストティーチャーとして招き、歴史・自然・福祉・産業についての講演を行った。すべての講演を聴き終えたところで、グループ分けを行い、福祉グループの中で UD についての学習を深めることとした。

まず、UD とバリアフリーの違いについて、担当教師が 2 時間の授業を行った。その中で、UD の基本理念である「はじめからいろいろな人が利用することを前提にみんなが使いやすい」ということを特に強調した。

生徒自身に課題を設定させるために、ブレインライティングなどの手法を取り入れ、2~3 人のグループで課題解決を図ることとした。



地域の方の講演を聴いている様子



集めた資料を整理し、レポートを作成

調査活動としては、まず図書資料等を利用して、UD についての基礎的な学習をし、次にフィールドワークを通して基山町の現状を把握し、最後に自分たちの考えをまとめて、提言を行うという活動を行った。

生徒のレポートとしては、大きく 2 種類に分類することができる。ひとつは役場や駅などの公共施設に UD を取り入れたものがどの程度存在するのかを調査し、これからの基山町のあり方を考えるもの。もうひとつは、自分たちが身近に感じているモノ(特に文房具)

における UD の現状調査である。前者のグループは実際に役場や駅、町立図書館などを訪ね、UD を取り入れた施設やモノにはどのようなモノがあるのかを把握してきた。後者のグループは文房具の大手メーカー（コクヨ）のHPから UD 商品を検索し、その誕生の経緯やコンセプトを知ることにより、大いに関心を高めたようであった。

8 取組の成果と課題

UD の概念自体は 1985 年に提唱されたもので、まだまだ歴史が浅く、全体的に浸透しているとは言い難い。そのため、従来から進められてきたバリアフリーとの線引きが難しかったようだ。事実、全く混乱して理解していたものも少なくなかった。また、本年度は UD について“知る”ことのみで終わってしまったので、今後の課題としては、どのような配慮がどのようなデザインを生んだのかという、UD の理念に触れるような活動を構築していく必要があるだろう。

生徒作品（報告書）



基山のUD

基本原則

1. 誰もが利用できること
2. 安全で安心な環境
3. 利用者のプライバシーと尊厳を尊重すること
4. 利用者の参加と協力を促すこと

建築的配慮

1. 段差解消
2. 手すり設置
3. 視覚的誘導
4. 音声誘導

交通手段

1. バス
2. タクシー
3. 徒歩

情報伝達

1. 視覚情報
2. 聴覚情報
3. 触覚情報

利用者の権利

1. 平等な機会
2. 差別禁止
3. 自己決定権

利用者のニーズ

1. 高齢者
2. 障害者
3. 妊婦
4. 子供

利用者の参加

1. 意見聴取
2. 参加型設計
3. 評価と改善

利用者の意識

1. 社会意識
2. 自己意識
3. 他者意識

利用者の行動

1. 安全行動
2. 適切な行動
3. 協力的行動

利用者の生活

1. 生活の質
2. 社会参加
3. 自立生活

利用者の未来

1. 持続可能な社会
2. 包摂的な社会
3. 誰もが輝ける社会

UDの重要性

誰もが安心して生活できる社会を実現するために、UDは不可欠な要素です。

UDのメリット

- 安全性の向上
- 利便性の向上
- アクセシビリティの向上
- 社会的包摂の促進

UDの実現に向けた取り組み

1. 意識の向上
2. 制度の整備
3. 技術の革新
4. 協働の推進

UDの課題

1. 意識の不足
2. 制度の不備
3. 技術の限界
4. 協働の不足

UDの未来

誰もが安心して生活できる社会を実現するために、UDは不可欠な要素です。

UDの事例

1. 駅の改修
2. 公園の整備
3. 学校のバリアフリー化
4. 企業のUD化

UDの展望

誰もが安心して生活できる社会を実現するために、UDは不可欠な要素です。